

北陸自動車株式会社

2022年度 環境経営レポート 対象期間2022年7月～2023年6月



エコアクション21
認証番号 0007718

作成日 2023年7月31日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組み結果とその評価	6
環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
外部からの環境上の苦情・要望等	11
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	11



Hokuriku Motor Co., Ltd.

□ごあいさつ

人とクルマ、自然が調和する環境作りを目指して地域と共存し、地域とともに前進する企業。これが弊社の創立以来の願いです。

そのため、かねてより廃棄物の適正な処理、清掃活動などを通じて社内外の美化、環境整備・保全活動に努めてまいりました。そしてこの取り組みをさらに前進させるため、エコアクション21環境経営システムを導入しています。

環境問題に今、取り組まなければ人類に未来はありません。

もちろん企業として存続することすら出来ません。私たちの活動が地域・社会へと広がり、ひいては地球全体の環境につながっていくことを願い、私たちの一人ひとりが毎日の仕事の中で出来る事から取り組みを始めています。

「地域に必要とされ、愛される企業」でありたいと願っています。

環境経営方針

<環境経営理念>

低排出ガス・低燃費車両の販売並びに車両整備を通じて社会に貢献するとともに、事業活動に伴う環境負荷の低減を継続的に改善することに努め、より良い環境作りを目指し、顧客、住民、利害関係者から信頼される事業者であり続ける。

<環境保全への行動指針>

1. 低排出ガス車両の販売促進
2. 定期点検車両の入庫促進
3. エネルギー消費量の節減による二酸化炭素排出量の削減
4. 水消費量の節減
5. 廃棄物排出量の削減
6. 化学物質の適正管理
7. 緑化及び整理整頓の推進
8. 環境関連法規等要求事項の遵守

制定日：2011年4月1日

改訂日：2022年10月14日

代表取締役社長 猪又一義

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名 代表取締役社長 猪又一義

(2) 所在地

本 社 新潟県糸魚川市寺島 3-1-8

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 専務取締役 青代哲夫 TEL：025-552-1002
担当者 事務局 佐藤 宏 TEL：025-552-1002

(4) 事業内容

自動車の販売及び整備、損害保険代理店業、自動車のリース

(5) 事業の規模

売上高	1,190	(百万円)
	本	社
従業員	名	53名
延べ床面積	m ²	3,228

(6) 事業年度 2022年7月～2023年6月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 北陸自動車株式会社
対象事業所： 本 社
組織： 全組織
活動： 全活動

□事業の紹介



大型自動車



クルマの販売



軽・普通自動車

タイヤで走るクルマのほとんど
を自社で点検・整備をする会社



建設機械

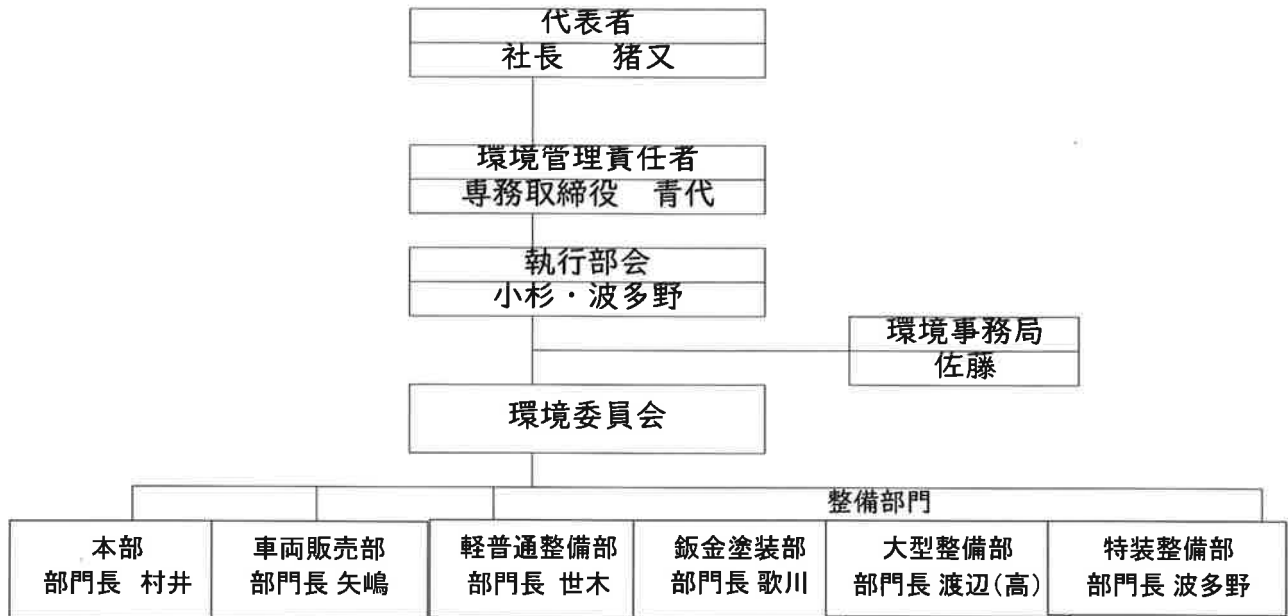


クレーン車



钣金塗装

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・見直し 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 一般教育訓練と事故及び緊急事態訓練計画書の策定 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認 執行部会及び事務局を任命
執行部会	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 現地審査での改善事項、指摘事項等の対応策の立案 環境活動全体の監査 事務局の育成と指導
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境委員会の開催 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の内部、外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 部門教育訓練計画書の策定 部門教育訓練の実施、記録の作成 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 業務上必要な資格取得に関する指導 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度
1. 二酸化炭素総排出量	Kg-CO2	182,244	160,504	137,290
2. 廃棄物排出量	Kg	20,930	22,571	22,992
一般廃棄物排出量	Kg	3,705	3,908	4,240
産業廃棄物排出量	Kg	17,225	18,663	18,752
3. 水使用量	m ³	—	—	—

※電力の二酸化炭素排出係数は0.378 kg-CO₂/kwhを使用。

毎月報告しているホンダ環境家計簿では、全国電力会社の平均である0.378を使用しているため。

□環境経営目標及びその実績

○—達成 ×—未達成

項目	年度	基準年度	2021年度		2022年度		2023年度
		2020年度	2021.7~2022.6		2022.7~2023.6		2023.7~2024.6
		2020.7~2021.6 (基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	評価 (実績)	(目標)
1. ハイブリット車の販売促進	台	73	77	56	46	×	41 販売台数の30%を 目標台数とする
	基準年度比		105.0 %	76.7 %			89.1 %
2. 販売車両の平均燃費向上	km/l	24.2	24.4	24.6	24.7	○	24.9
	基準年度比		101.0 %	101.7 %	102.0 %		100.8 %
3. 定期点検車両の入庫促進	台数	1308	1,318	1,448	1,325	×	1,301
	基準年度比	100 %	100.8 %	110.7 %	101.3 %		98.2 %
4. 二酸化炭素排出量の削減	原単位 排出量/粗利 *毎年0.5%削減目標 (百万)	182,244	160,504	160,504	160,504	○	137,290
	基準年度比	100 %	99.5 %	91.7 %	99.0 %		79.5 %
	378.6	376.7	354.5	374.8	○	305.9	
5. 電気消費量の節減	原単位 排出量/粗利 *毎年0.5%削減目標 (百万)	170,501	148,899	148,899	148,899	○	133,259
	基準年度比	100 %	99.5 %	91.5 %	99.0 %		81.2 %
	378.6	376.7	354.5	374.8	○	305.9	
6. 化石燃料消費量の節減	原単位 排出量/粗利 *毎年0.5%削減目標 (百万)	44,846	39,964	39,964	39,964	○	35,760
	基準年度比	100 %	99.5 %	94.1 %	99.0 %		87.2 %
	99.6	99.1	92.7	98.6	○	82.7	
7. 廃棄物排出量の削減	原単位 排出量/粗利 *毎年0.5%削減目標 (百万)	20,930	22,571	22,571	22,571	×	22,992
	基準年度比	100 %	99.5 %	131.9 %	99.0 %		144.8 %
	46.5	46.3	50.3	46.0	×	53.5	
8. グリーン購入及び再生部品(リビルト)の使用促進	円	※リビルト品の使用は顧客のニーズに左右されるので、使用促進管理表にて各部門の使用件数と金額を管理する。					
	使用金額(円)	6,739,429			5,320,525		
9. 緑化及び工場内の整理整頓	-	毎月第3火曜日に、全社一斉の環境活動の実施。					

注) 1. 環境経営目標4~7は2020年度を基準年度とし、毎年0.5%の削減目標とする。

2. 増加目標の場合(1~3)は100%以上が目標達成となる。

削減目標の場合(4~7)は100%以下が目標達成となる。

3. 水消費量の節減は「監視・測定項目」とするため、環境目標から外す。

4. 化学物質使用量の節減は「監視・測定項目」とするため、環境目標から外す。

10. 監視・測定項目

○水消費量の適正管理	水量メーター故障で水の使用量が測定できない為、監視・測定項目とする。毎月「水の効率的利用及び節水」活動の評価をして管理を行っていく。
○化学物質の適正管理	仕事量によりPRTR制度対象の化学物質の量変動する為、数値化しての目標設定が困難だが「化学物質使用量の抑制及び管理」で毎月評価をし管理を行っていく。

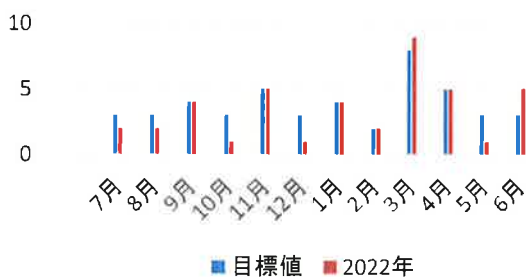
□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標：○達成 ×未達成

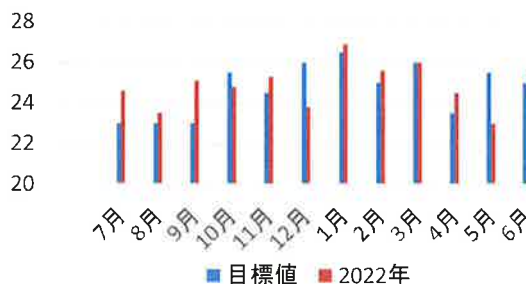
活動：○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

1.ハイブリット車の販売促進	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み
数値目標	×	各担当員は見込み客・HOT客の設定は目標どおり設定し、活動できた。コロナ禍のなか訪問活動、来店客の減少など絶対数は減少したが、HSSの活用などにより効果よく活動したように思われる。半導体不足により、主にハイブリット車の納期が長期化し、販売が進まず、絶対数も目標どおり進まなかった。来年度も基本活動を大切に、モデルチェンジ時の勉強会を中心に進め、目標を達成する。
2.販売車両の平均燃費向上		
数値目標	○	
・商談時にHSSの競合車種比較表から燃費・排出ガスを説明する。	○	
・車両のモデルチェンジ時に営業マンの勉強会を行うが、この時排ガス、燃費に関する項目も含める。	○	
・営業マンは月初、販売計画を立案する際、ハイブリット車の見込み客10件、HOT客2件の設定をする。	○	
・販売車両の排出ガス、燃費を1ヵ月毎に集計して前年同月と対比して、進捗状況を確認、評価する。	○	

ハイブリット車の販売台数(台)



平均燃費(km/l)



販売台数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
目標値	3	3	4	3	5	3	4	2	8	5	3	3
2022年	2	2	4	1	5	1	4	2	9	5	1	5

※ハイブリッド車の販売促進は販売台数の30%を目標数値とする。

平均燃費	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
目標値	23.0	23.0	23.0	25.5	24.5	26.0	26.5	25.0	26.0	23.5	25.5	25.0
2022年	24.6	23.5	25.1	24.8	25.3	23.8	26.9	25.6	26.0	24.5	23.0	25.7



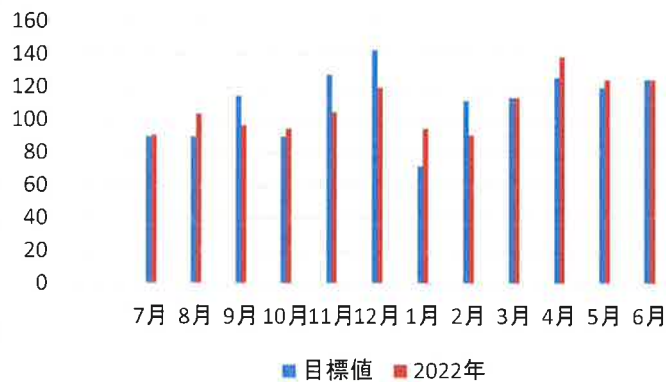
安全衛生委員会とエコアクション21環境委員会の様子



3カ月に1度の安全環境パトロール

3. 定期点検車両の入庫促進	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み
数値目標	×	点検案内ハガキは漏れなく発送しているのだが、積極的な電話等での案内不足があったと思う、今後の課題として特に進捗状況等をリアルタイムに把握し入庫促進を図ってほしい。
・翌月の定期点検リストを毎月作成し、点検案内はがきの作成とリストを掲示して管理をする。	○	
・上記割振りをを行い、各自お客様に連絡をし、入庫促進する。	△	
・毎月15日までにお客様と連絡を取り、その結果を点検車両リストに記入する。	△	
・15日を経過した時点で未連絡者がいれば再度連絡する。	△	
・定期点検時に排ガス、黒煙基準値を超えているおそれのある車両は、チェックを行い基準値を超えていればお客様に連絡して整備を促す。	○	

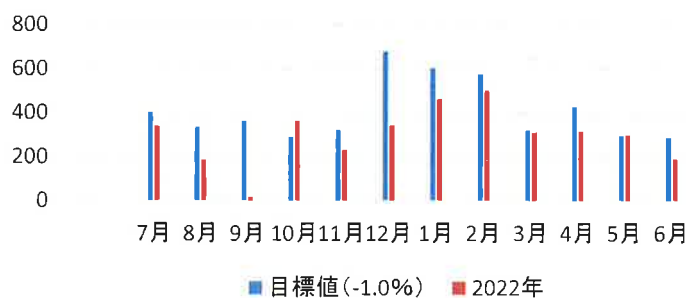
定期点検車両の入庫台数(台)



点検作業台数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
目標値	90	90	115	90	128	143	72	112	114	126	120	125
2022年	91	104	97	95	105	120	95	91	114	139	125	125

4. 二酸化炭素排出量の削減	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み
数値目標 (原単位)	○	目標に対する達成率は79.5%で達成。電気、化石燃料の値上がりにより委員会などで節減を呼び掛けたこともあり、全社員に節減の意識が高まった。
・電気消費量、化石燃料消費量の削減に取り組む。		

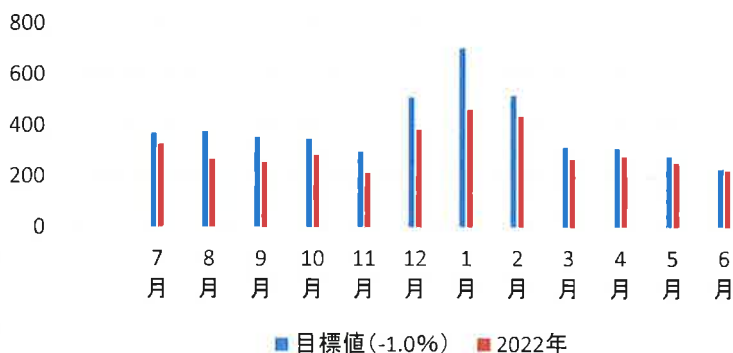
二酸化炭素排出量(原単位)



二酸化炭素	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
目標値(-1.0%)	403.1	338.4	365.3	293.9	326	680	605	578	324.6	429.1	298.7	289.8
2022年	341.6	190.2	22.4	366.6	234	346	464	505	313.6	320.4	304.1	193.4

5. 電気消費量の節減	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み
数値目標（原単位）		
・昼休みは照明及び機械等の電源を可能な限り切る。	○	目標の達成率は81.2%で達成が出来た。電気料金の値上がりにより節電意識が高まり消費量の節減ができた。次年度も節減意識を持ち無駄の無い使用を心掛け取組んでいく。
・検査場等の使用頻度の少ない照明機器は電源を切っておき、使用時のみ電源を入れる。	○	
・蛍光灯、空調設備のフィルターの掃除は年2回以上行う。	○	

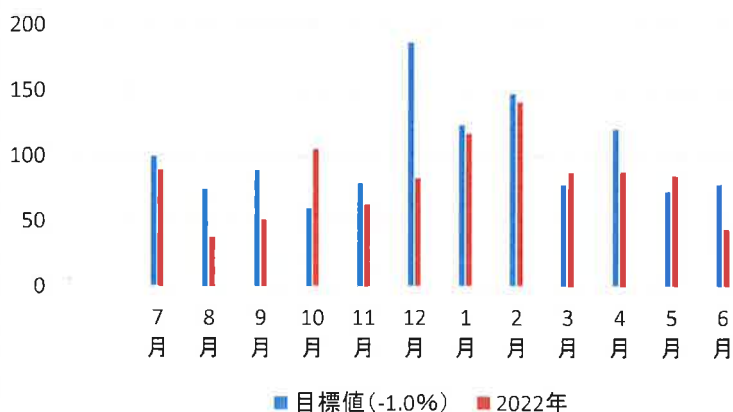
電気消費量(原単位)



電気	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
目標値(-1.0%)	370.9	376.2	355.4	349.9	298	514	707	520	316.1	311.4	279.6	230.7
2022年	327.6	269.2	258.7	286.4	216	386	464	436	268.4	279.4	254.5	225.5

6. 化石燃料消費量の節減	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み
数値目標（原単位）		
(ガソリン・軽油) 急発進、急加速の防止。 又、車から離れる時は、必ずエンジン停止。	○	目標に対しての達成率は、87.2%で目標達成ができた。化石燃料で約4,200ℓ節減。化石燃料の値上りのため節減意識が高まる。次年度も節減に取組んでいく。
・訪問先をまとめ、訪問順序を効率化して燃料の節減に努める。	○	
・(灯油) 休憩所を出る時はストーブの設定温度を下げる。又、長時間空ける時はストーブを止める。	○	
・塗装乾燥ブースは車両及び部品の乾燥工程を調整して稼働効率を上げる。	○	

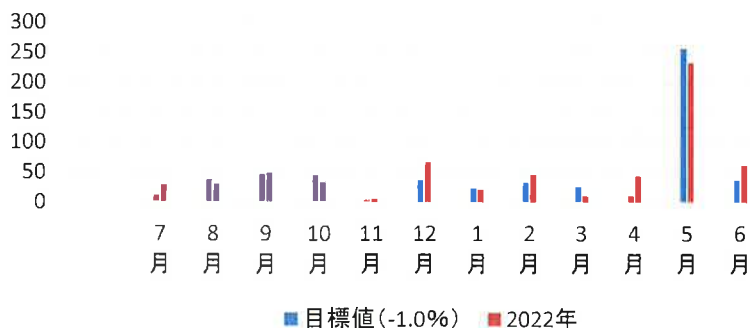
化石燃料消費量(原単位)



化石燃料	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
目標値(-1.0%)	99.5	74.2	88.4	59.9	78.8	187	124	148	78	120.7	73	78.3
2022年	89.1	37.8	51.3	105.2	62.8	83.1	117	141	87.5	88	84.9	44.4

7. 廃棄物排出量の削減	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み
数値目標（原単位）		目標に対して達成率は144.8%で未達成。木くずと廃プラスチック類の廃棄が増えており、仕事量に関係するため削減は難しい。現在、ネット環境の取組としてサイボウズ（情報伝達）とNAS（資料保存）をスタートし、ペーパーレス化に取り組んでいる。次年度も継続して削減に取り組む。
・ 廃棄物の分別を徹底し、可能な場合は売却する。	○	
・ 詰め替え可能な製品の利用や備品の修理などにより、製品の長期使用を進めている。	○	
・ ミスコピー用紙の再利用、両面コピーの推進。	○	
・ ペーパーレス化の推進。	○	

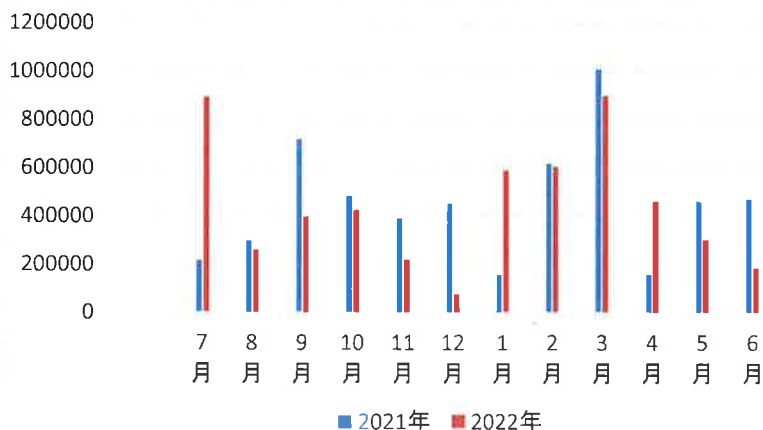
廃棄物排出量(原単位)



廃棄物量	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
目標値(-1.0%)	12.4	37.3	47.1	45.1	5.1	37.4	24.8	33.8	26.6	11.5	257.8	38
2022年	29.3	30.6	49.4	34	7	68.2	22.3	47	11.8	44.8	234.3	62.9

8. グリーン購入及び再生品（リビルト）の使用促進	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み
数値目標		基準年度と比べると、約140万円ほどリビルト品の購入額が減っている。次年度もお客様には継続してリビルト品の使用を呼びかけていく。
・ 可能な限り環境負荷の少ない商品を優先して購入する。	○	
・ 再生部品及び中古部品の使用をお客様に積極的に呼びかける。	○	

リビルト、中古部品利用金額(円)

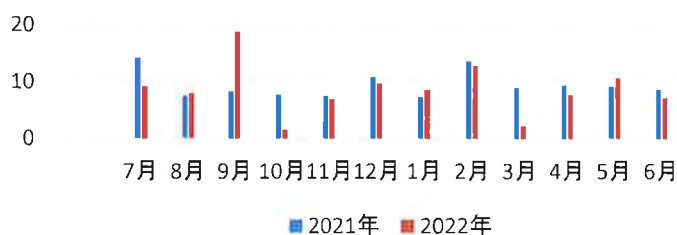


リビルト、中古品	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2021年	215,470	299,600	718,300	482,850	392,200	453,490	157,800	617,400	1,008,800	160,000	460,755	471,010
2022年	892,260	260,455	399,030	426,430	221,200	77,330	589,060	606,080	899,080	461,200	302,550	185,850

9. 緑化及び工場内の整理整頓	達成状況	取組み結果とその評価、次年度の取組み
数値目標		各部署での整理整頓、掃除は出来ている。側溝掃除も適宜行われている。緑化活動ではプランターの管理や草刈りも出来ている。次年度も継続して取り組んでいく。
・毎月第3火曜日に、全部門で整理整頓、掃除及び敷地内の美化活動と分離層の油除去作業を行う。	○	
・適宜、側溝の汚泥除去、掃除を行う。	○	
・敷地内の草刈りは事務局が状況を見て外注に依頼する。	○	

10. 監視・測定項目		
○水の効率的利用及び節水の評価	達成状況	取組み結果とその評価
・洗車を行う時は垂れ流しでの洗車は極力避ける。	○	効率的利用と節水に関しては出来ている。又、4月に地下水タンクからの水漏れがあり自社で修理対応する。5月に洗車機を設置する。
・水の出しすぎに注意する。	○	
・手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を心掛ける。	○	
・消雪用、氷解用の使用時は、こまめにホースの位置を変えて効率的に使用する。	○	
・水道管からの水漏れを定期的に出来る範囲（目視、音）で確認する。	○	
○化学物質使用量の抑制及び管理	達成状況	取組み結果とその評価
・最小限での運用を心掛ける。	○	化学物質使用料は最小限での運用を心掛けている。次年度も使用料を最小限に抑えたい。その他の管理も出来ている。
・塗装ブースの定期的な点検・メンテナンスの実施	○	
・有機溶剤使用における作業管理（手順書、労働衛生保護具）	○	
・掲示と保管（貯蔵及び空き容器の処理）を管理している。	○	
・化学部室の安全性に関する情報伝達のため、SDSにより管理している。	○	
・健康管理（特殊健康診断の実施、年2回）を行っている。	○	
・有機溶剤の代替え物質の調査を実施している。	○	

特定化学物質(トルエン、キシレン、エチルベンゼン、 スチレン)使用量(kg)



化学物質使用量	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2021年	14.20	7.62	8.42	7.80	7.62	10.88	7.40	13.69	9.06	9.46	9.29	8.69
2022年	9.31	8.10	18.82	1.75	7.06	9.80	8.70	12.90	2.45	7.80	10.68	7.30

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。



適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音規制法	空気圧縮機、スチームクリーナー
振動規制法	空気圧縮機、スチームクリーナー
水質汚濁法	貯油施設
浄化槽法	浄化槽
P R T R 法	塗料、洗浄剤
消防法（危険物）	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機
自動車リサイクル法	使用済み自動車引取業者、フロン回収業者登録
グリーン購入法	文具、照明、家電、リビルト・中古品部品

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

今年度は外部・内部の苦情・要望等はありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：油流出事故の発生	
令和4年11月30日（水） 13：00～14：00	
■実施場所：钣金塗装工場	
■参加者	猪又（幸）、松木、歌川、比護、柳澤 計5人
■実施内容	シンナー容器転倒によるシンナー流出事故。有機溶剤中毒者が出た。
■評価	手順書の変更の必要性
	あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/>
■実施状況の様子	慣れた作業でも想定外の事態が発生した場合に対応できるよう訓練を行った。吸着マットの置場と使用した場合の補充の確認も全員で行った。
比護がシンナー使用中に誤って容器を転倒させてしまい、シンナーが流出。近くにいた柳澤に知らせる。柳澤が流出したシンナーを拭き取りシンナー缶に蓋をする。その後、比護がめまいの症状が出たため、風通しの良い風上に移動し、有機溶剤中毒のおそれがある為、歌川が病院へ連絡し搬送する。	
 	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

（実施日：2023年7月26日）

<p>・目標、計画の達成状況</p> <p>環境目標のうち、ハイブリット車の販売促進、定期点検車両の入庫促進、廃棄物排出量の削減が未達成となりました。販売車両は部品の供給が滞っており販売台数にも影響を及ぼしています。定期点検車両台数も前年度より147台減となりました。廃棄物排出量は仕事量の増加で廃プラスチックと木くずの排出量が増えています。その他の目標は、電気・化石燃料の値上がりもあり全社で節減意識が高まり目標達成が出来ました。</p> <p>・組織を取り巻く経済環境</p> <p>ロシアによるウクライナ侵攻に端を発する資源価格の高騰やエネルギー供給不安、それによる電力不足や物価上昇。国内新車販売台数は年々減少傾向にあり少子高齢化、クルマ離れの傾向が続いています。系魚川市の人口も毎年2%（800人）程度減少し保有台数も減少しています。</p> <p>・組織の課題とチャンス</p> <p>まずは安全の確保（事故・災害なし）、売上・利益の確保（変化に対する柔軟な営業）、業務プロセスの効率化と並行してデジタル化による情報の統合管理の推進（デジタル化推進チーム）など、厳しい社会情勢の中で生き残るため、柔軟性をもって取り組んでまいります。</p>
--

環境経営方針
環境経営目標・計画
実施体制他

変更なし
 変更なし
 変更なし

変更あり
 変更あり
 変更あり

